

鎮魂の歌



小正月も過ぎたある夜、茶の間でほんやりとテレビを見ていると慌ただしく襖を開けて夫が顔を出した。

「おいおい、ラジオの方が面白いぞ。今、岡野弘彦が歌の話をしている」

と言ってまた寝室に戻った。

私は鹿児島市で行われた岡野弘彦の講演を聞きに行ったことがあった。国学院大学のPTAの県支部の主催ということで、当地の歌会にも案内が来ていたのだった。まだ短歌を始めばかりで、岡野弘彦とは名前以外何も知らなかった。ただ国学院大学教授と聞いて心が引かれた。実は私の弟山崎元一が国

学院大学で教授をしている。東大の東洋史を卒業して、新制の文学博士第一号となった。古代インド史では現在第一人者である。昨今出版されている中央公論社の「世界の歴史」の古代インド史を担当している。

当時私は、鹿児島に来て短歌の勉強を始めたばかりであった。知人も少なかった。私は岡野先生にもご挨拶したかったので、私の所属する歌会からは誰も申し込まなかったが、一人受講の申込をしたのだった。しばらくしてPTAの担当の方から電話があり、その方のお子さんが大学で弟から教わったという。会場の黎明館の場所も知らず、ついでに教えてもらうような状態だったが、楽しみになり心待ちするようになった。

当日、会場で講演のレジュメをもらったがそれは何ともとりとめない頼りない感じのものだった。これでどんなお話になるのだろうとやや気落ちした気分になった。

ところが、お話が始まってそんな思いは吹っ飛ん

でしまった。今ではその具体的な内容については記憶に殆どないが、短歌の日本文学に残した刻印の深さを十分に認識させるものであった。そうだ、日本語を根本的に知らねばならない。そう思った私は、その後上京した折、真先に神田の古本屋街に行き、軒並み探して、岡野弘彦の師である折口信夫の全集三十二巻を購ったのだった。しかしその意志になかなか実行が伴わず、まだそれは本棚に並べられたままである。

夫に呼ばれた私はテレビを消して、寝室へ行った。枕元のラジオは「人生に三つの歌あり」という番組で岡野弘彦が深く敬愛してやまない折口信夫との思ひ出を語っていた。夫の話では、第一の歌は幼時に母親のよく歌ってくれた「青葉の笛」の話だったとのことであった。平敦盛の最期を歌った哀調こそつたその歌は、私たち以前の年代の人には忘れえぬ歌の一つである。

折口信夫は、弘彦に「万葉集の東歌を全部暗記しなさい」と言われたとのことである。それは、戦争

によってなござりにされていた日本文学の素養を身につけることにも、またその素材が生活からにじみでたものであり、その後の歌を詠むことに大変な勉強になったと話された。私たちは鴟外、漱石、露伴などが深く身につけていた漢学の素養などは望むべくもなければ、古今、新古今など教科書で習った以上のことは知らない世代である。今となっては暗記など出来る年齢でもないが、東歌を読み通すくらいことは今年の課題にしようと思つたことであつた。

第一の歌は折口信夫が愛感していて、正月には決まってしみじみと聞く習わしとなつていたという地唄の「雪」であつた。「花も雪も払えば清き袂かな」という出だしの、しっとりとした中にほのかな艶のある、芸妓さんのものであつた。そのレコードが割れてしまつた年に信夫も逝つてしまわれたとのことである。その運命的な話も印象的であつた。

それから短歌は朗詠するものであり、作つた人自ら朗詠するのを聞くことが本当の歌を味わつこと

であると話されて、信夫と斎藤茂吉のそれぞれ自作の歌を朗詠したものを第三の歌として聞かせてくれた。録音の関係か二人とも思ったより早口で、特に茂吉のは発音からして東北の人といった訥々とした歌いぶりであった。

最後に今年平成十一年の「宮中歌会始の儀」の選者としての弘彦の歌

青つなばら潮干からして母をよぶ

わがすさをそぞ恋ひしかりける

についてのアナウンサーの問いに答えて、神話のすさをのみこと（速須佐之男命）が海も山も枯れ尽くすほどに母を恋い号泣したその思いに、この太平洋戦争で海の藻屑となった何十万の御霊の思いを込めたと話された。そしていつの時代にも戦争が終われば、その霊を悼む鎮魂の歌が歌われて来ていたのに、敗戦といふこともあろうが、日本人はそれを全く行っていない、行おうともしていないといふことを話されてその番組は終わった。

私は今の現代短歌のありようについては、懐疑的

である。そして岡野弘彦の歌に対する姿勢に私は同感して来た。そしてまたこの鎮魂の歌の必要性について、心底賛同する。犠牲者を悼み、鎮めてこそ未来への礎が出来て、明るい新世紀を迎えることが出来るのだと思う。それは現代の物質本位のすさんだ心の癒しにもなることだろう。

大空、大海原、そしてその先の大陸に向かって
朗々と歌えるような心の籠もった歌を作ることとは、
今年と言わず、生涯の私の目標である。

